

「今月の1枚」

クリ（ブナ科） *Castanea crenata*

6月にクリの雌花を掲載しました。その後同じ雌花を追跡してイガグリになるまで撮影しました。その成長過程を見てみましょう。



写真1 6月1日撮影のクリの雌花



写真2 6月13日撮影。雄花はすっかり落ちました。よく見ると雌花のあるところで花穂が取れています。雌花がついていても花穂ごと落ちているものもあります（写真1の一番上の雌花）。雌花の大きさはそれほど変わりませんが、殻斗（かくと）（ブナ科の種子（どんぐり）の基部を覆う部分）のとげが少し伸びてきました。



写真3 6月22日撮影。少し大きくなって直径1cmくらい。とげの数は増えてない。触っても痛くない。



写真4 6月28日撮影。 左側の実が落ちてしまいました。写真3では虫の糞のようなものが見えるので実を落としてしまったのかもしれません。だいぶとげが伸びてきました。



写真5 7月23日撮影。この間、西日本豪雨があり、写真を撮るのを忘れていたらこんなに大きくなっていました！とげの数が一気に増え、長さも伸びています。



写真6 8月1日撮影。



写真7 8月1日撮影。地面を見ると青い実がたくさん落ちています。すべての実を熟させると栄養がいきわたらないため、で自ら途中間引きをするためと考えられます。



写真8 8月22日撮影。ついに追跡していたイガグリも落ちてしまいました。これは別のイガグリです。



写真9 9月12日撮影。少し横に膨らんだ感じがします。とげの向いている方向が複雑になってきました。もう少しでクリが食べられます。

(写真・文：酒井敦 四国支所構内で撮影)

(No.278 2018.9.18 掲載)